

THE LETTER 宇都宮東教室

第15号 「わかりません」

発刊日 2025年12月16日

文責 熊澤洋一

特に、英語・数学に強い苦手意識を持つ生徒にとって、「勉強」とは「できるようにする」ことが目標であるはずです。しかし、現実はそれを「回避」しているだけで、「解決しようとすらしていない」または「得意科目だけやる」傾向が、最近特に強く見られます。「面倒だ」、「苦手だからこそやらない…」、どれも生徒の答えの一つで、他にも多種多様な答えが散見、見聞できます。とは言え、テスト前には「それなりに」やっています…が…それって「その場しのぎ」に過ぎません。従って成績も「微妙」な場合が多いです。

塾では、強制的に呼び出し自習を命じられている生徒が複数名おりますが、前述の通り「できないことをできるようにする」のが勉強のはずですが、そもそも「できるようにしようと思っていない」生徒が散見できるのも事実です。目の前の問題には興味関心がなく、時間ばかりが気になって、ただ「行けと言わされたから来た」のような懲罰的意味合いの強い生徒…これは「成績が上がらない」典型的な例です。上がるわけがありません、何も解決していないのですから。「単位量・割合・速さなど算数」の根本を理解していない、「知らない英単語、文法が山積みになり、読めない書けない」…結局何からやればいいかすら分からないからやらない、“負のスパイラル”です。「積み上げ教科」は 改善するにも大量の時間をするし、根が深いのが特徴です。

先ずは、一問、「ここがわかりません」の一歩から。「なるほど」って思えれば、また次の二問、次の二問と積み上がります。ただ来ても、座って授業を聞いていても、塾を変えても「分からないこと」を解決し続けなければ「何もかわかりません」。お心あたりのある方はご連絡ください。